

令和4年度 愛媛県立野村高等学校 第三学期終業式式辞

いよいよ、本日で令和4年度が終了します。終業式は他の学期にもありますが、三学期の終業式は特に大きな節目だと、私は思います。一月の始業式の際に、二年生の皆さんには、最上級生への準備期間であり三年ゼロ学期である三学期を、その自覚を持って過ごしてほしいと話しました。そして一年生の皆さんには、新しく入学する一年生の良き先輩となるために、少し緩んできた気持ちを引き締め直してほしいとお願いしました。また、今年がうさぎ年であることから、以下の三つの言葉を皆さんにプレゼントしたと思います。

一つ目は、誰からも愛されるうさぎのように、自分の魅力を引き出そう。二つ目は、目の前に現れてくる問題も、うさぎのように明るくぴょんとクリアーしていこう。三つ目は、実現可能な目標を立て、夢に向かってジャンプしよう でした。今年一年、三つの言葉を意識して、日々の学校生活を充実したものにしてほしいと思います。

さて、先日の卒業式で、53名の先輩を送り出しました。私は、卒業生へのはなむけの言葉として、「どうせやるならいやいやではなく、一生懸命にやれ。そして、何でもいいから『いきがい』を見つけてほしい。」と話しました

でも、そもそも「いきがい」って何でしょう。期末考査で高得点をとるとか、スポーツ競技の県大会で入賞するとか、そのこと自身はとてもすごいことですが、それは「いきがい」とは、ちょっと違うものだと私は感じています。

どんな小さなことでもいいから、まず第一に相手が喜んでくれて、それが自分にとっても喜びになるとき、人は「いきがい」を感じるのではないかと私は思います。もし、皆さんが毎日お弁当を作ってくれる家族に「毎日美味しいお弁当をありがとう。」と感謝の言葉を伝えたとしましょう。その時、家族の人にとってお弁当作りは、「毎日やるべき義務」から「いきがい」に変わるかもしれません。

人間は論理で説得されるより、「情（じょう）」、つまり感情を揺さぶられた時に動き出すものです。皆さんの「いきがい」は、これからどうやって生まれてくるのでしょうか。私は、それをとても楽しみにしていますし、こうした「いきがい」や、ワクワク感を持つ野村高生が増え、この学校の勢いや魅力がどんどん加速していく様子を想像すると自分のからだに勇気や元気がみなぎってくるのを感じます。

さて、野村高校は3年後に、80周年を迎えます。野村高校は愛媛県の高校の中でも、地域に根付いた畜産科や相撲部があり、活力ある地域づくりの拠点となる学校のモデルとして注目されています。西予市からも、公営塾や地域活動等に対し、たくさんの支援をいただいています。有難いことです。一人一人が本当に素直で、無限の可能性を持っている皆さんが、4月に一つ上級生となって輝き、大きく羽ばたいてくれることを祈り、式辞と致します。